

第1セクション (演題番号 1~3) の要約

座長: 東京医大 善本隆之

演題1 マウスNK細胞に対するウベニメクスの作用
【要約】

アミノペプチダーゼの阻害物質として見出されたウベニメクスは IL-1、2 および CSF 等のサイトカイン産生を増強し移植癌抑制効果があり、成人急性非リンパ球性白血病に対する完全寛解導入後の維持強化のための化学療法剤との併用療法に使用されている。今回、マウスリンパ球に対するウベニメクスの効果を検討した結果、Th1/Th2 バランスやNK 活性化への影響があることがわかった。

【質問・コメント】

作用機序等についての質問があった。

演題2 水溶性フェノキサジンの抗腫瘍作用と免疫抑制作用

【要約】

水溶性フェノキサジン (Phx-1) が抗腫瘍剤であるアクチノマイシン D の構造に類似していることより、種々のがん細胞に対して抗腫瘍作用を示すことや、活性化 T 細胞の細胞増殖を濃度依存的に阻害することを明らかにした。

【質問・コメント】

Phx-1 の LD50 や血中濃度、抗腫瘍作用と免疫抑制作用は相反する作用ではなどの質問があった。

演題3 患者末梢血リンパ球の免疫抑制薬感受性に基づくテーラーメード薬物療法に関する研究

【要約】

患者末梢血リンパ球の *in vitro* での薬剤感受性は、その薬剤の治療効果と相関することを明らかにし、いわゆるテーラーメード薬物療法の有効性を指摘した。

【質問・コメント】

再現性や他の薬剤の場合に関する質問があった。

(4) サンディミュンとネオラルの24時間血中濃度モニタリングの比較

○内山正美¹⁾、竹内裕紀²⁾、平良真一郎¹⁾、赤司 勲¹⁾、中村有紀¹⁾、岩本 整¹⁾、濱耕一郎¹⁾、鳴海康方¹⁾、松野直徒¹⁾、明石貴雄²⁾、平野俊彦³⁾、岡希太郎³⁾、長尾 桓¹⁾

(¹⁾東京医大・外科学第5講座、²⁾東京医科大・八王子医療センター薬剤部、³⁾東京薬大・臨床薬理学)

NEO は従来の CYA 製剤 SIM に比べ吸収を安定させた製剤であるが、朝夕服用両方を含めた評価がなされていない。そこで腎移植患者で SIM と NEO の24時間血中濃度モニタリングを行い、体内動態を比較した。

(5) 高脂血症家兎における血清脂質および動脈硬化に対するピオグリタゾンの作用

○谷口 潤¹⁾、新井克典¹⁾、稲村恒明¹⁾、金沢真雄¹⁾、能登谷洋子¹⁾、林 徹¹⁾、本多秀雄²⁾、諸江寛子²⁾、田村和広²⁾、向後博司²⁾

(¹⁾東京医大・内科学第3講座、²⁾東京薬大・第2薬理学)

高脂血症家兎における血清脂質ならびに大動脈および腎動脈脂質沈着に及ぼす pioglitazone の影響について検討した。Pioglitazone は血清脂質に影響を与えることなく脂質沈着を抑制した。

(6) 高脂血症家兎における血管機能変化とそれに及ぼす pioglitazone の作用

○本多秀雄¹⁾、諸江寛子¹⁾、田村和広¹⁾、向後博司¹⁾、谷口 潤²⁾、新井克典²⁾、稲村恒明²⁾、金沢真雄²⁾、能登谷洋子²⁾、林 徹²⁾

(¹⁾東京薬大・第二薬理学、²⁾東京医大・内科学第三講座)

【目的】

高 cholesterol 食を負荷した高脂血症家兎をモデル動物として用い、その病態時における血管機能の変化、特に内皮依存性の血管弛緩反応がいかなる変化を示すか、またそれに及ぼす pioglitazone の影響について検討した。

【方法】

9週齢雄性日本白色家兎を1週間の予備飼育後、control 群、cholesterol 群および pioglitazone 群の3群に分けた。Control 群には標準飼料を、cholesterol 群には0.5% cholesterol 含有飼料を、pioglitazone 群には0.5% cholesterol および pioglitazone を300 ppm 含有する飼料をそれぞれ1日200g 給餌し、自由摂取させ飼育した。各群を5週間または10週間飼育後、pentobarbital 投与麻酔下 (50 mg/kg, i.p.) 大腿動脈より放血死させ、胸部大動脈を摘出し、栄養液を満たしたシャー